

研修1. 不妊・不育相談支援研修
事例発表①

不妊・不育相談の実際

ART岡本ウーマンズクリニック
聖路加国際大学看護学研究科客員研究員
(公認心理師・生殖心理カウンセラー)
石井 慶子

4 インテーク（面接前の情報）

- ◆ 不妊クリニックの場合
不妊相談士がインテークシート作成
基本情報
・年齢（末談者・パートナー）
・結婚時期 ・職業
・治療段階 ・採卵や移植の経過
・家族構成（拳児、同居家族）→ ジェノグラム
(流産・死産・判定マイナス体験)
- ◆ グリーフカウンセリングの場合
上記をカウンセラーが聞き取り、
申込みメールからの情報も加えてインテークシートを作成

K.Ishii 2020

2 はじめに

- ◆ 二つの臨床の場
- ◆ インテーク：得られる情報
- ◆ 患者の特徴
- ◆ 事例1 主訴が明確なケース
- ◆ 事例2 モヤモヤ感で来談するケース
- ◆ 心がけていること（専門職からの支援として）

K.Ishii 2020

5 患者の背景・環境の情報から読み取る・・・

- 治療年数
- 治療段階
- 職業の有無
- 婦人科系の治療体験
- 結婚年齢 結婚歴
- 夫婦の関係
- 拳児体験有無
- 対人的環境

K.Ishii 2020

3 二つの場

- ◆ 生殖補助医療施設 「ART岡本ウーマンズクリニック」
受診患者への面接
一般面接
流産・死産のサポート面接
- ◆ 聖路加国際大学天使の保護者ルカの会「グリーフカウンセリング」
周産期喪失（流産 死産 新生児死）・乳児死亡専門のサポート
グリーフケア
週1回（水曜日） 有料 事前予約制
2020年から、オンライン面接開始

K.Ishii 2020

6 来談者の主訴と抱える困難

- 自分の抱える困難に気づいている場合
治療には、前向き
時間、経済、治療スケジュール、介護、
- 漠然とした困難感 気分・感情・拳児をめぐる実存的問題
モヤモヤした気持ち、将来の不安
治療継続の是非
他者との比較 他者へのネガティブ感情
夫とのコミュニケーション

K.Ishii 2020

7 事例1) A子さん：焦りと困難・・・

39歳 会社員 35歳で結婚 36歳から不妊治療
人工授精3回ののち、体外受精にステップアップ
これまでに、採卵2回 移植5回 流産2回（直近は、先月9W）
凍結卵は残り2個

「また、流産になった。悲しいというより、このまま、赤ちゃんを授
かれないのではないかと不安が、今は強い。
凍結卵があるから、早く治療に戻りたい。
でも、また同じことになるのではないかと考えると怖い。
いろいろなことを犠牲にして、治療してきたのに・・・」

K.Ishii 2020

10 事例2) B子さん：不妊治療と人工死産

32歳 パートタイム勤務 結婚6年目 治療1年目
初めての体外受精で妊娠（凍結卵 6個あり）
12週時の健診で、胎児の異常の可能性指摘され、検査の結果
14トリソミーと判明 19週で人工死産 睡眠・食事は異常なし

「自分たちでよく話し合って決めたことだった。
そのときは、次の妊娠に向けて切り替えようと思っていた。
しかし、出産後、赤ちゃんに会ってみたら、
可愛くて、申し訳なくて、なんてひどいことをしたんだろうと思う。
悲しい気持ちで、毎日落ち込んでいる。」

K.Ishii 2020

8 インタークシートで確認しながら、
さらに話を聴いていくと・・・

- ◆ これまで、休みなく、治療を続けてきた
- ◆ 職場で、治療のための時間調整が難しい
- ◆ 親族（夫の弟夫婦）に子供が生まれた
- ◆ 友人たちは、どんどん出産していく
- ◆ 前回の流産（7W）のときは、悲しむ時間も無くすぐに治療に戻ってしまった。
- ◆ 日常生活では、食生活やサプリなどに気を使っていた。
- ◆ これまで、勉強も仕事も頑張れば結果がでていたのに、これ（治療）ばかりは、うまくいかないものだ
- ◆ 夫は、治療に協力的で、流産した私をいたわってくれている。

K.Ishii 2020

11 B子さんの語りと悲嘆への対応

- ◆ あれから、1か月が過ぎたが、まだつらい。自分がおかしくなってしまったのではないかな？
- ◆ 治療をしなければ、赤ちゃんは死ぬことはなかったのに・・・
- ◆ 次の妊娠のことを考えるが、また同じことになるのではという不安もある。

悲嘆サポートとしての情報提供

- 大切な赤ちゃんを亡くした後では、当然の感情。時間をかけて気持ちは変化していく。
- 大切な命を失うと、原因探しや自責の気持ちが強くなることもある。いろいろなことで自分を責めてしまいがち。
- 自分を責める気持ちも、次の妊娠を考えるのも、母親として自然な気持ち。今は心と体を休めよう。

K.Ishii 2020

9 A子さんと話し合ったこと

- ◆ 2回の流産の体験について、状況や気持ち
- ◆ 周囲の妊娠出産話でわいてくる感情 「素直に喜べない」
- ◆ 職場の状況 上司の無理解 受診しずらさ 有給使用
「治療のため、人事評価良くない、そのためか昇進が遅れている」

ポイント：伝えたこと

流産直後の気持ちは、やがて落ち着く → 今は気持ちの波の中にあるのかもかもしれない
凍結卵があることの強み → いつでも治療に戻れる
夫が支援してくれていることの強み → 一人で頑張らずに甘えよう
仕事は状況が変われば、いつか挽回できる → 長い将来、「出産後」がある

A子さんの感想

これまで、人に話していないことを話せて、すっきりした。
治療は、体と心を休めてから、再開しようと考えた。
流産した赤ちゃんのことを想って、泣くことを我慢しないでいようと思う

K.Ishii 2020

12 B子さんと話し合ったこと

- ◆ 「今」の悲嘆の状態
- ◆ 夫との気持ちのズレ
- ◆ これからの治療との向き合い方（治療再開後、妊娠後の不安）

ポイント：伝えたこと

悲嘆の経過の情報 感情が今後どのように変化していくか、感情をみまもること
母親であること：死産した赤ちゃんの「お母さん」であること
夫とのコミュニケーションの取り方
凍結卵があることの強み（採卵から始めなくても良い 急がなくてよいこと）
治療再開へ気持ちが向かうまでに、ゆっくり体を整える。夫婦で過ごす時間を大切に

B子さんの感想

悲しみの気持ちが変化していくことがわかってほっとした。
治療を今すぐに始めなければと、知らないうちに焦っていた。
人工死産でも、赤ちゃんのことを想ってもいいのだ、と思った。
ゆっくり、体を整えようと思えた。

K.Ishii 2020

13

どのようなケースであっても、心がけていること

- 来談者への視点：不妊治療患者共通の可能性
繰り返してきた不成功体験（毎月、流産に近い喪失を経験）
日々の努力が評価されない（認められない）感覚
孤立感 失いがちなセルフコントロール感
- 相談職（専門家）としての支援＝患者が独力では得られないもの
相談内容への丁寧な対応、必要な情報提供
 - + **承認・いたわりの対応と言葉**
「来談のハードル」を超えて、来談してくれたことへのねぎらい
日々、治療に向き合っていることへのねぎらい
拳児を願う一人の人間であり カップルであることへの尊敬・尊重
その人のもつ強みを指摘する
 - + **セルフコンパッション（※）の示唆**
※ 自分自身をいたわる・大切にすること

K.Ishii 2020